

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立武雄青陵中学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・生徒の興味・関心の幅を広げ、主体的に学びに向かう力を育成することで基礎学力及び応用力の向上を図るとともに、業務の効率化を推進する必要がある。 ・全教育活動を通じて命の大切さ、異なる考えを持つ他者を理解することの重要性を強調し、道徳教育にも力を入れ、他者を思いやり、向き合う心を醸成する必要がある。 ・教職員の適正な勤務時間管理や業務の効率化・精選を更に進め、働きやすい環境づくりや働き方改革に向けて教職員の意識改革を図ることが必要である。
------------------	--

2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力もち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	○学力向上と進路支援 ○生徒指導の充実 ○中高交流の促進 ○保護者・地域との連携 ○教職員間の組織力の向上、迅速・誠実・的確な問題解決、効果的な働き方の実践及び法令順守意識の徹底
------------	---

4 重点取組内容・成果指標					5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○「基礎学力」の定着とともに「学び方の基礎基本」を身につけさせる。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるようになる。 家庭学習時間の充実と増加	○学校評価アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」と回答した生徒が95%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「授業を受けるのが楽しい」と回答した生徒が90%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「本校では、ICT機器(電子黒板・学習用PC)が有効に活用されている」と回答した生徒が90%以上。	○基礎学力を定着するための効果的な授業研究を行い、授業改善に取り組む。 ○ICT機器の効果的利活用で学力向上に役立てる。 ○多様な生徒の能力を引き出すために、少人数授業やTT授業を効果的に行う。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるように、教師は探究的授業を実践する。 ○家庭学習時間の確保、充実を支援する				教務 総務		
	○学力向上 学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力推移調査において、GTZを各教科(国・数・英)をA3以上、国・数・英総合評価で1年生はB1以上、2・3年生はA3以上にする。	○授業評価アンケートを年2回行い、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ○学力推移調査実施後、教科担当者で結果を分析し、全職員での共有し、学習指導の充実に役立てる。 ○サポート学習会、土曜ハイレベル講座等を利用し、個に応じた学習指導を行い学力向上を目指す。				総務		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、「道徳の授業を通じて、思いやりや正義感、感動する心を身につけることができた」と回答した生徒が90%以上。	○「ふれあい道徳」で道徳の授業参観、教育講演会を実施し、生徒・保護者の人権意識を高める。 ○生徒の心の成長に応じて、道徳の授業を計画し、内容を工夫する。 ○学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、「取組内容」を達成する。				総務		
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートにおいて、「他者を理解する心」「思いやりや心」を大切に「いじめを許さない教育」を受けている」と回答した生徒が90%以上。	○学校独自様式による「学校生活アンケート」を年に3回実施するとともに、県指定様式による「いじめ・体罰アンケート」を年に2回実施する。 ○いじめを積極的に認知し、解決にあたっては組織的に速やかに対応する。				生徒指導		
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎学校評価アンケートにおいて、「将来の自分の進路について考えることができた」と回答した生徒が90%以上。 ○講演会等を経て、気持ちの変化を把握する。	○体験的な学びや教科横断的な授業を通じて、将来の目標設定の手助けを行う。 ○さまざまな講演会を通じて、自分の進路において考える機会をもうける。				総務		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●学校評価アンケートにおいて、「健康に食事は大切である」と回答した生徒が95%以上。	○「食育だより」をより精査し、生徒の食に対する意識が高まるように、個々の実態に合った内容にする。 ○各授業や生徒委員会活動、また講演会等を通して、食事を基本とする健康的な生活の大切さを伝える。				保健相談		
	○安全に関する資質・能力の育成	○学校評価アンケートにおいて、「講演会や防災に関する行事や授業などを通じて防災意識が高まった」と回答した生徒が90%以上。	○防災避難訓練や、身の周りに起こりうる災害についての授業を通して、防災意識を高める。 ○PTAと連携をとり、生徒・教職員分の備蓄食糧の整備をする。 ○学校周辺の危険箇所を把握し、情報を共有する。 ○毎月安全点検を行う。				教務(PTA) 保健相談		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日	○持続可能な学校運営の改善を更に進める。 ○時間割上の配慮や年休取得推進日を設け、年休を取得しやすい環境をつくりを行う。 ○業務を「抱え込ませない」ために、職員相互で声掛けを行うことで、心理的安全性が保てる環境づくりを行う。				教頭		
	○保護者・地域との連携強化	○学校評価アンケートにおいて、「学校は、メールや学校ホームページ等で、地域や保護者に情報発信を行っている」と回答した保護者が85%以上。	○学校ホームページを更新し、本校の教育活動とその成果を発信する。 ○Classi(アプリ配信)を活用し、学校からの連絡や欠席連絡を確実に確認する等、行き違いがないようにする。				教頭・教務		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の理解の促進と専門性の向上	○特別支援教育に関する理解が深まったと回答する職員が80%以上。	○生徒指導協議会を開き、職員間の共有を図る。 ○職員研修を行い、特別支援に関する専門性を高める。				保健相談		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○生徒が行きたいと思う学校づくり	○魅力ある学校行事等の企画・実践 ○自己有用感の育成	○学校評価アンケートにおいて、「本校に来て良かった」と回答した生徒が90%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」と回答した生徒が90%以上。	○日々の学習活動や学校行事を通し、生徒主体の活動を重視し、適切に評価をする。 ○生徒の主体的な活動について、職員間の情報共有、共通理解を確実に進行。 ○教育相談等を利活用すると同時に、生徒の変化を敏感にキャッチし、その支援を適切に行えるよう、日々生徒を観察する。				教務		

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--